様式 C-7-2

自己評価報告書

平成２２年　５月　１日現在

研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2007～2010
課題番号：１９５３０３０７
研究課題名（和文）　鉄道建設期ドイツ語圏における新技術・制度の社会的受容の分析

研究課題名（英文）　An analysis of the introduction and acceptance of the new technology and institutions in the German society of the railroad-building age

研究代表者
鳩澤　歩（BANZAWA　AYUMU）
大阪大学・大学院経済学研究科・准教授
研究者番号：90238238

研究代表者の専門分野：経済史・経営史
科研費の分科・細目：経済学・経済史
キーワード：経済史、西洋史、鉄道史

１．研究計画の概要

本研究は、ドイツ（ドイツ語圏）における工業化とそれにともなう経済成長の時期であった19世紀において、特に第２四半期～第３四半期までを「鉄道建設期」として把握し、主に鉄道業とその周辺産業を分析対象とすることにより、当該時期において顕著であった新技術の導入・開発に対して社会制度や個々の社会的組織が如何に対応し、また逆に技術革新に如何に働きかけたのかを多面的に解明しようとする。新技術の社会的な制御regulationの実態を、工業化初期の欧州において、「全体史」志向をもつという意味で「経済史」的のみならず「社会経済史」的に確認しようとする。具体的には本研究は以下を課題とする。すなわち、（１）鉄道路線建設の全体像の把握　ならびに（２）鉄道業の社会経済的インパクトの計量的調査　である。より詳細は以下の通りである。

（１）ドイツ語圏とくにプロイセンの特定路線の計画・土地買収から開通・運行にいたる経緯の全体像を、「制度の経済史」的な問題関心と視角に照らしつつ、史料的に緻密にフォローすることによって、19世紀半ばのドイツ語圏社会における鉄道＝新技術体系の浸透を立体的に解明する。

（２）クリオメトリックス的手法を―必ずしも狭い意味での新古典派視点に拘泥することなく―導入し、鉄道の主に前方連関効果にあたる輸送・コミュニケーション手段としての効果をより詳細に確認する。

２．研究の進捗状況

（１）これまで３回のドイツを中心とするヨーロッパへの出張により、現地文書館所蔵の未公刊資料ならびに同時代公刊物の調査・閲覧・収集をおこなった。主な史料調査先は以下のとおりである。プロイセン文化財・枢密国家公文書館（Preussischer Kultuerbesitz Geheimesstaatsarchiv Berlin-Dahlem）、ベルリン州文書館（Landesarchiv Berlin）連邦文書館ベルリン分館（Bundesarchiv Berlin）(以上、ベルリン市)、ドイツ鉄道博物館（DB Museum）図書室（ニュルンベルク市)、ドイツ博物館(Deutsches　Museum）図書館（ミュンヘン市)。このうちベルリン市に所在する諸公文書館では 19 世紀プロイセン王国の商務省、国王官房、内務省等関連の鉄道経営ならびに鉄道行政に関する未公刊一次史料を収集し、併せてライヒ（帝政）時代のドイツ帝国における帝国鉄道庁の作成した内部文書史料を確認・収集した。ニュルンベルクの鉄道博物館では 19 世紀の統計・雑誌等公刊資料を閲覧・収集した。ドイツ博物館図書室では、鉄道業専門紙・誌を調査・閲覧した。また、ベルリン近郊フランクフルト（a.O.）への現地調査をおこなった。

（２）以上の史料・資料中、整理と分析が終わったものについてはこれを利用し、下記のとおり 19 世紀プロイセンにおける鉄道経営や、それに関連する技術導入に関する複数の報告をおこなった。その一部、プロイセンにおける鉄道業の総体的な経営問題に関する論稿を作成し、下記のとおりこれを公刊した。またプロイセン王国の技術導入と官僚制、さらに技術に依拠した企業活動との関連について、ベルリン・フランクフルト鉄道をケー

スとして実証的な論文を執筆、現在学会誌に投稿中である。報告内容は討議の結果修正し、複数の論文として執筆し、学会誌等に投稿の準備を進めている。
（３）この他、ドイツ語圏鉄道業の内部市場や雇用慣行に関する論文を上記史料調査にもとづき補完・拡張し、英文論文として執筆中である。
（４）とくに収集した統計資料を用いた数量経済史的アプローチによる論稿の準備として、ドイツにおけるクリオメトリックスの動向を調査し、数量経済史研究会において報告した。

３．現在までの達成度
②おおむね順調に進展している。
（理由）
史料・資料収集は順調に進み、それらの整理・分析も計画通り進行している。それらを成果として発表する論文については、当初計画よりも多数の本数・規模の論稿執筆が必要との判断から、報告原稿に至る作業を終了しているものも含め完成・投稿・発表に至っていないものが数本あり、これらの作成・完成が急がれる状態である。また、うち一本は英語校正の段階に留まっている。

４．今後の研究の推進方策
今後、1 度ないし２度の資料調査により資料的な補完をおこない、ドイツにおける研究者との面談をおこない、あわせて今後の研究の基盤を拡張する。これらを経て作成中の論文を完成し、学会誌への投稿を行なえる状態もしくはその前段階（ディスカッション・ペーパーの公開や学会報告）にする。作成した成果を整理し、しかるべき加筆や追加的な分析をおこなったうえで、近い将来の書籍としての出版を目指す。また、研究成果の一部はその他の公刊物に反映させる。

５． 代表的な研究成果
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計１件）
①鳩澤　歩、1840 年代ドイツ語圏諸国の鉄道建設における経営上の諸問題、大阪大学経済学、第 59 巻、２９８－３１９頁、2009、査読無

〔学会発表〕（計４件）
①鳩澤　歩、技術形成からみた 19 世紀ドイツ鉄道業；「制度の不利益」をめぐる２つのアネクドーテ、アジア国際経済史研究会、2008 年９月２９日、 松山大学
②鳩澤　歩、19 世紀後半ドイツ鉄道業の展開～技術と知識の社会的受容をめぐる一考察～、日本経済史研究所　 第５１回経済史研究会、2008 年４月１２日、大阪経済大学・日本経済史研究所
③鳩澤　歩、ドイツ経済史研究におけるクリオメトリックス：展開と課題、国際高等研究所・宮本フェロー研究会「数量経済史研究会」、2007 年 8 月 28 日、国際高等研究所

〔図書〕（計１件）
①阿部武司、中村尚史、鳩澤　歩、他、産業革命と企業経営　1882～1914　（うち「欧米における近代企業の成立」を執筆）、ミネルヴァ書房、2010、171～180 頁